今日から新しい単元に入ります！

次の写真は何を
しているところ？

A

B

C

A

B

C

A～Cは何をしているところでしょうか？
この3枚が入った封筒を配るのでペアで考えよう。

A

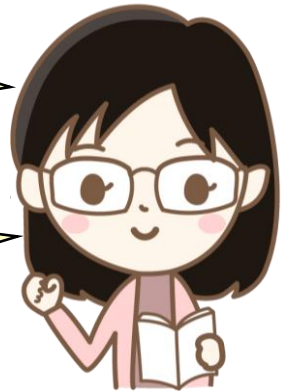
B

C

仮設トイレの建設	難民に聞き取り	子どもへの予防接種

まず、Cは何をしている所かな？

次に、AとB、どちらがわかりやすかったですか？



A

仮設トイレの建設

B

難民に聞き取り

C

子どもへの予防接種

なぜこのような活動をしているのかな？

１　国際社会の動向と平和の追究

【本時の問い（ＭＱ）】

「よりよい社会の形成に参画する日本（私）の役割とは何か？」

ヒントはここです！

何の形成のためかな？

本時はこの問いについてつい追究していきましょう！

A

B

C

①政府の役人　②NPOやNGOの職員

③国連の職員　④その他

では、改めて、A～Cは
どのような立場の人が取り組んでいる？

国連(国際連合)の組織図

Y ……国連平和維持活動(PKO)

国際司法裁判所

信託統治理事会
(活動停止中)

国際原子力機関
(IAEA)

X

事務局

経済社会理事会 ……世界貿易機関
(WTO)

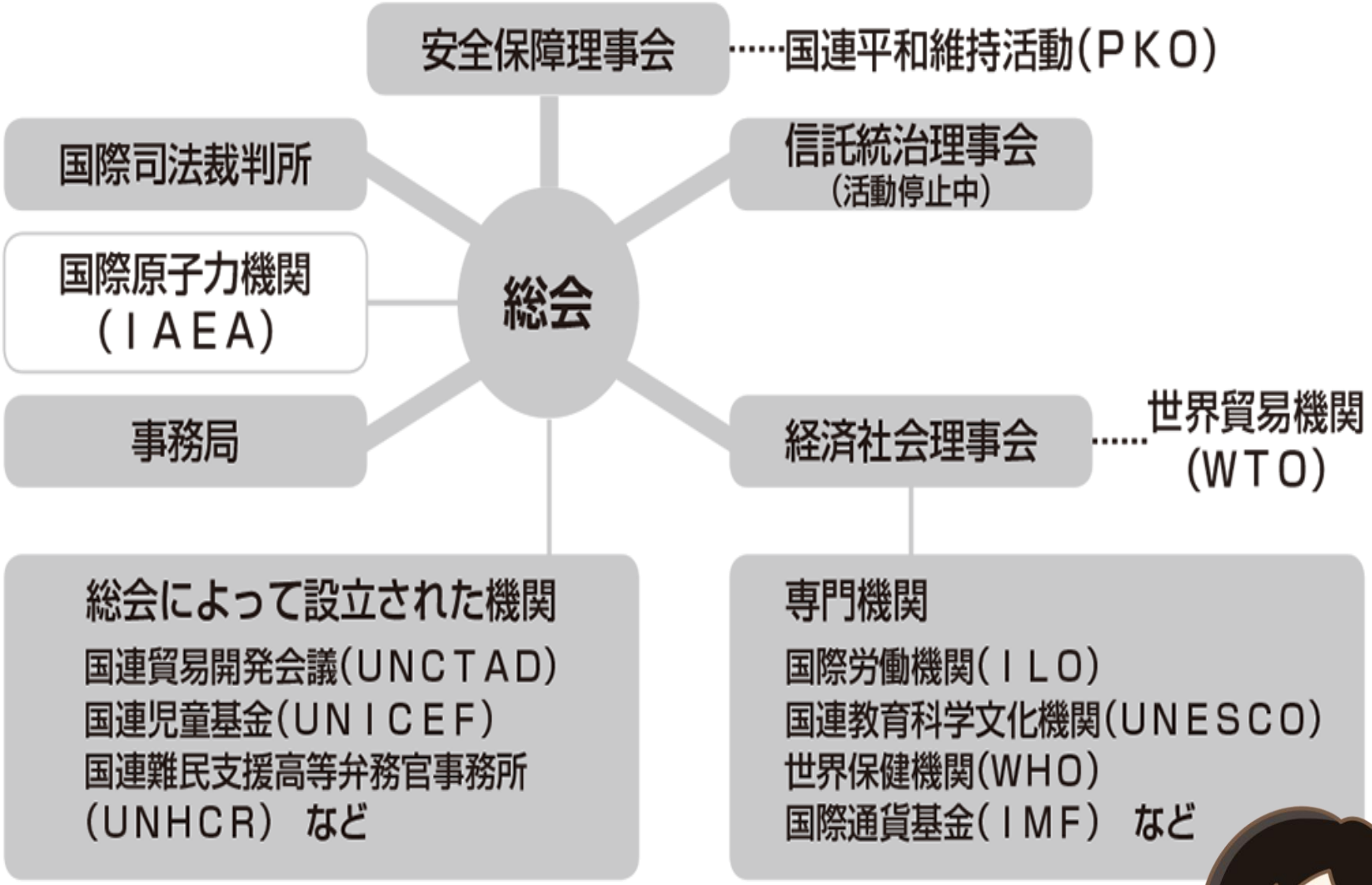
総会によって設立された機関

国連貿易開発会議(UNCTAD)
国連児童基金(UNICEF)
国連難民支援高等弁務官事務所
(UNHCR) など

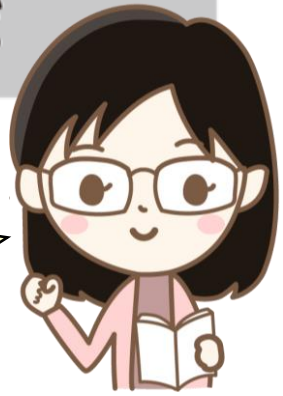
専門機関

国際労働機関(ILO)
国連教育科学文化機関(UNESCO)
世界保健機関(WHO)
国際通貨基金(IMF) など

X・Yにあてはまる組織名を答えよう。



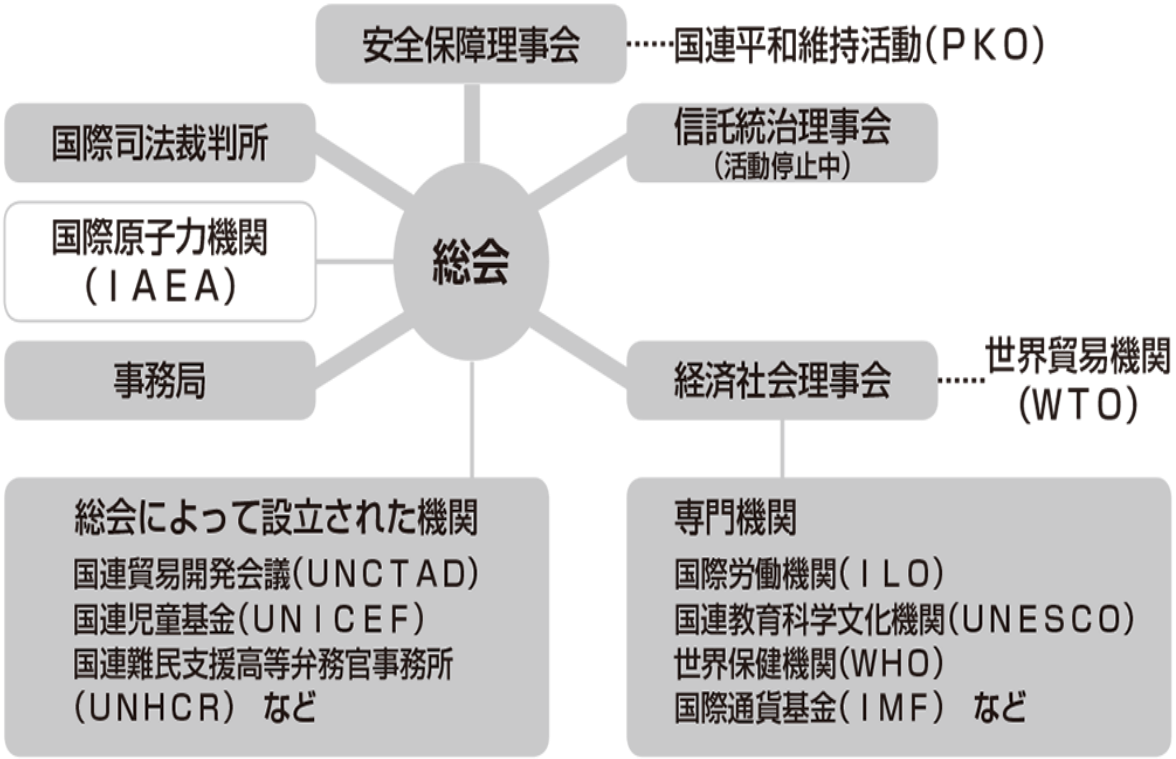
先ほどのA～Cは**どの機関に所属している人々が行っている**かな？**アルファベット**で記入しょう！



A

B

C



A	B	C
PKO	UNHCR	UNICEF

あてはまる機関名を略称
（アルファベット）で答えよう

国連（UN）で働いている
沖縄県出身者はいる？

沖縄県出身の国連職員例

知花　くらら	新垣　尚子 （あらかき　しょうこ）	仲村　秀一郎 （なかむら　ひでいちろう）
国連　世界食糧計画 オフィシャルサポーター	？	？

この中に芸能人がいるよ！誰かわかるかな？

今日はこの人物に注目です！

仲村さんがUN職員になる過程をのぞいてみよう

仲村秀一郎さん　について
1．勤務（予定）の国連機関名
2．中学生の時のできごと
3．最初の職業と職場
4．高校時代からの夢
5．大学卒業後の進路
6．大学院卒業後に働いた最初の国
7．県出身者として初めて〇〇で勤務
8．〇〇で行った業務（仕事内容）
9．海外で働いて気づき大事だと思ったこと
10．今後の夢
11．その他、１～10以外で補足説明したいこと

仲村秀一朗さん(33)

①国際金融機関で働く仲村秀一朗（ひでいちろう）さんが１月、外務省のＪＰＯ派遣制度試験に合格した。３月に国連開発計画（ＵＮＤＰ）で防災の専門職員としてアフリカへ派遣される。多感な時期に家庭崩壊など逆境を乗り越えてきた仲村さん。海外での経験を重ねることで、苦しい立場の人に手を差し伸べ、誰かの役に立つような仕事をしたいと考えるようになったという。

②中城村南上原で生まれ育った。父は定年退職後、朝から酒を飲み周りに迷惑をかけていた。父と口論が絶えなかった母は、仲村さんが中学２年生の夏に突然いなくなった。親戚夫婦が仲村さんと妹らの面倒を見た。

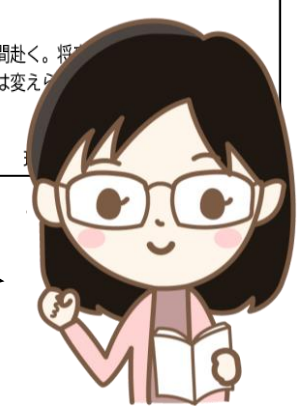
③好きだった英語の勉強は続け普天間高、沖縄キリスト教学院大に通った。大学３年の2009年に嘉手納基地内の消防で働くことが決まり、学業を続けながら消防士の勤務をこなした。何度も人の死に直面し「人はいつ死ぬか分からない。基地のフェンスの中でキャリアを終えるのは嫌だ」と考えるようになった。

④高校時代から国連機関で働くことが夢で、大学卒業後の2012年、通信制の吉備（きび）国際大大学院（岡山県）に通い、防災関係の修士号を取得した。海外経験を積むため2017年に消防の仕事を辞め、国際協力機構（ＪＩＣＡ）でジャマイカ国へ。防災対策などの経験を重ね、2019年から県出身者として初めて、米州開発銀行（ＩＤＢ）で勤務する。ＩＤＢでは気候変動や自然災害に関して調査し、政策を提言する業務などを担う。

⑤海外で働くと、低所得の家庭の子どもは低所得の仕事に就くという“コミュニティーの階層”が、どこにでもあることに気付いた。それを打破するには勉強を重ねたり、コミュニティーから出たりして、選択肢を広げることが大事と考えている。

⑥父は2011年、自宅で倒れた。いつものように酔いつぶれているだけと思い、仲村さんはそのまま消防へ出勤した。その後、病気だったことが判明し、帰らぬ人になった。仲村さんは「父を見捨てた」と責任を感じ、償いのため人の役に立ちたいとの思いもある。

⑦2021年２月末でＩＤＢを辞め、ＵＮＤＰの防災担当としてアフリカ南部のマラウイに２年間赴く。将
沖縄に戻り、防災関係で「沖縄のためになることをしたい」と目標を掲げる。「一人で世界は変えら
が、一人の世界は変えられる。少しでも人の役に立ちたい」と挑戦は続く。

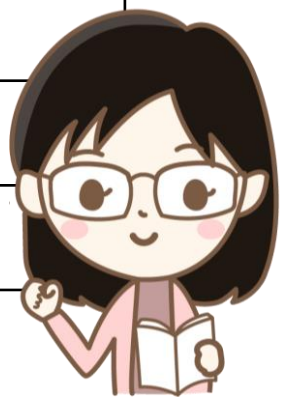


質問1～11の答えになっているなと思うところにマーカーしながら読みましょう。5分で！

仲村秀一郎さん　について

1．勤務（予定）の国連機関名
2．中学生の時のできごと
3．最初の職業と職場
4．高校時代からの夢
5．大学卒業後の進路
6．大学院卒業後に働いた最初の国
7．県出身者として初めて〇〇で勤務
8．〇〇で行った業務（仕事内容）
9．海外で働いて気づき大事だと思ったこと
10．今後の夢
11．その他、１～10以外で補足説明したいこと

ペアで1～11を
確認しましょう。
3分で！



琉球新報　2021年2月25日 金良孝矢

仲村　秀一朗(なかむら ひでいちろう)さん

①国際金融機関で働く仲村秀一朗さんが１月、外務省のＪＰＯ派遣制度試験に合格した。３月に国連開発計画（ＵＮＤＰ）で防災の専門職員としてアフリカへ派遣される。多感な時期に家庭崩壊など逆境を乗り越えてきた仲村さん。海外での経験を重ねることで、苦しい立場の人に手を差し伸べ、誰かの役に立つような仕事をしたいと考えるようになったという。

②中城村南上原で生まれ育った。父は定年退職後、朝から酒を飲み周りに迷惑をかけていた。父と口論が絶えなかった母は、仲村さんが中学２年生の夏に突然いなくなった。親戚夫婦が仲村さんと妹らの面倒を見た。

③好きだった英語の勉強は続け普天間高、沖縄キリスト教学院大に通った。大学３年の2009年に嘉手納基地内の消防で働くことが決まり、学業を続けながら消防士の勤務をこなした。何度も人の死に直面し「人はいつ死ぬか分からない。基地のフェンスの中でキャリアを終えるのは嫌だ」と考えるようになった。

④高校時代から国連機関で働くことが夢で、大学卒業後の2012年、通信制の吉備（きび）国際大大学院（岡山県）に通い、防災関係の修士号を取得した。海外経験を積むため2017年に消防の仕事を辞め、国際協力機構（ＪＩＣＡ）でジャマイカ国へ。防災対策などの経験を重ね、2019年から県出身者として初めて、米州開発銀行（ＩＤＢ）で勤務する。ＩＤＢでは気候変動や自然災害に関して調査し、政策を提言する業務などを担う。

⑤海外で働くと、低所得の家庭の子どもは低所得の仕事に就くという“コミュニティーの階層”が、どこにでもあることに気付いた。それを打破するには勉強を重ねたり、コミュニティーから出たりして、選択肢を広げることが大事と考えている。

⑥父は2011年、自宅で倒れた。いつものように酔いつぶれているだけと思い、仲村さんはそのまま消防へ出勤した。その後、病気だったことが判明し、帰らぬ人になった。仲村さんは「父を見捨てた」と責任を感じ、償いのため人の役に立ちたいとの思いもある。

⑦2021年２月末でＩＤＢを辞め、ＵＮＤＰの防災担当としてアフリカ南部のマラウイに２年間赴く。将来は沖縄に戻り、防災関係で「沖縄のためになることをしたい」と目標を掲げる。「一人で世界は変えられないが、一人の世界は変えられる。少しでも人の役に立ちたい」と挑戦は続く。

仲村さんのその後は・・・

仲村秀一朗さん(33)

①国際金融機関で働く仲村秀一朗（ひでいちろう）さんが１月、外務省のＪＰＯ派遣制度試験に合格した。３月に国連開発計画（ＵＮＤＰ）で防災の専門職員としてアフリカへ派遣される。多感な時期に家庭崩壊など逆境を乗り越えてきた仲村さん。海外での経験を重ねることで、苦しい立場の人に手を差し伸べ、誰かの役に立つような仕事をしたいと考えるようになったという。

②中城村南上原で生まれ育った。父は定年退職後、朝から酒を飲み周りに迷惑をかけていた。父と口論が絶えなかった母は、仲村さんが中学２年生の夏に突然いなくなった。親戚夫婦が仲村さんと妹らの面倒を見た。

③好きだった英語の勉強は続け普天間高、沖縄キリスト教学院大に通った。大学３年の2009年に嘉手納基地内の消防で働くことが決まり、学業を続けながら消防士の勤務をこなした。何度も人の死に直面し「人はいつ死ぬか分からない。基地のフェンスの中でキャリアを終えるのは嫌だ」と考えるようになった。

④高校時代から国連機関で働くことが夢で、大学卒業後の2012年、通信制の吉備（きび）国際大大学院（岡山県）に通い、防災関係の修士号を取得した。海外経験を積むため2017年に消防の仕事を辞め、国際協力機構（ＪＩＣＡ）でジャマイカ国へ。防災対策などの経験を重ね、2019年から県出身者として初めて、米州開発銀行（ＩＤＢ）で勤務する。ＩＤＢでは気候変動や自然災害に関して調査し、政策を提言する業務などを担う。

⑤海外で働くと、低所得の家庭の子どもは低所得の仕事に就くという“コミュニティーの階層”が、どこにでもあることに気付いた。それを打破するには勉強を重ねたり、コミュニティーから出たりして、選択肢を広げることが大事と考えている。

⑥父は2011年、自宅で倒れた。いつものように酔いつぶれているだけと思い、仲村さんはそのまま消防へ出勤した。その後、病気だったことが判明し、帰らぬ人になった。仲村さんは「父を見捨てた」と責任を感じ、償いのため人の役に立ちたいとの思いもある。

⑦2021年２月末でＩＤＢを辞め、ＵＮＤＰの防災担当としてアフリカ南部のマラウイに２年間赴く。将来は沖縄に戻り、防災関係で「沖縄のためになることをしたい」と目標を掲げる。「一人で世界は変えられないが、一人の世界は変えられる。少しでも人の役に立ちたい」と挑戦は続く。

琉球新報　2021年2月25日　金良孝矢

2022年6月7日ＯＴＶ　7分

VTRを見ましょう

国連職員として働く夢を叶えた仲村秀一朗さんに夢の実現へのヒントを伺った（沖縄テレビ）2022/6/7

仲村さんに続こう！

次は**あなたが国連職員**になる番！

【FQ】

国際社会の中で、日本はどのような役割を果たし、何に取り組んでいく必要があるのだろうか。

【未来課題】

国連（ＵＮ）職員として、
取り組んでいることを
母校の中学生に紹介しよう！

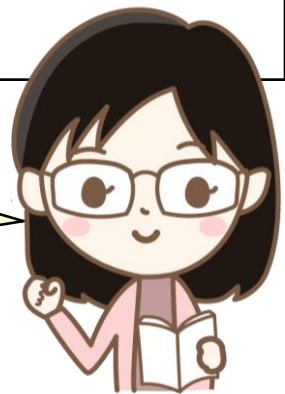
国連で働いている自分を
想像してみよう！

（『新公共』p86～105）

第２編　自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち
第２章　政治的な主体となる私たち

知識 技能	よりよい社会は、一人一人が［　　］に参加し、意見や利害の対立状況を調整して［　　］形成しながら築かれることを理解する。
思考 判断 表現	よりよい社会になるために、［　　］の解決に向けて［　　］しながら考察・構想したことを、［　　］を持って表現する。
主体的	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を［　　］事として捉え、解決しようとしている。

単元の最後にこの姿が見えるようになることが目標です！



公共「平和力アップシート」	単元名	国際政治の動向と平和の追究	1年		組		番	氏名	

ＦＱ	国際社会の中で、日本はどのような役割を果たし、何に取り組んでいく必要があるのだろうか
未来課題	「国連（ＵＮ）職員として取り組んでいることを母校の中学生に紹介しよう！」
単元最初の考え	10年後、国連職員として何に取り組んでいる？（　　）

日	【MQ】とキーワード			★まとめ・ふりかえり（それ以外のキーワードがある場合は中央の□に記入しよう！）	貢献度(%)
	1【社会に参画する日本（私）の役割とは何か】			★今日の授業を終えて、今の気持ちを左のキーワードから３つ選び〇を付けて、「R80」で説明しよう。	
月	おどろいた	興味がわいた	困った		
	知りたい		大変だ		
日	伝えたい	やってみたい	感動した		%

ここも忘れずに！

	3【国連の役割とは何か】			★国連職員として働いてみたい機関を左から1つ選び〇を付けて、その理由を	
月	ＵＮＩＣＥＦ	ＵＮＤＰ	ＵＮＨＣＲ		
	ＩＢＲＤ		ＷＨＯ		
日	ＵＮＣＴＡＤ	ＵＮＥＰ	ＵＮＥＳＣＯ		%

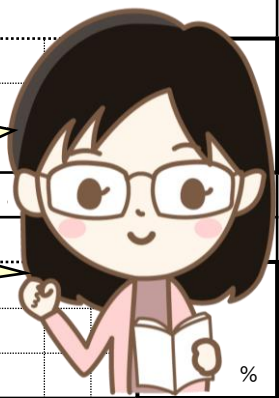
	5【核兵器廃絶に向け重要なことは何か】			★今日の授業を終えて、最も取り組んでみたいことをＡ～Ｈから1つ選び〇を付けて、「R80」で説明しよう。	
月	A	B	C		
	D		E		
日	F	G	H		%

	6【平和な社会にするために何が一番				
月	こわい	おどろいた			
	もっと知りたい				
日	新鮮だ	無力感			

「平和力アップシート」です！

	7【難民問題に対して日本が取組むことは何か】				
月	A	B	C		
	D		E		
日	F	G	H		%

今日は、この部分を記入します！



【注意】
次のスライドは、
ワークシートの裏に印刷、
または、別紙で配布するもの

仲村 秀一郎(なかむら ひでいちろう)さんがUN職員になる過程をのぞいてみよう
（1～11に当てはまると思う部分にマーカーしながら読もう！）

1．勤務（予定）の国連機関名
2．中学生の時のできごと
3．最初の職業と職場
4．高校時代からの夢
5．大学卒業後の進路
6．大学院卒業後に働いた最初の国
7．県出身者として初めて〇〇〇で勤務
8．〇〇〇で行った業務（仕事内容）
9．海外で働いて気づき大事だと思ったこと
10．今後の夢
11．その他、１～10以外で補足説明したいこと

①国際金融機関で働く仲村秀一朗さんが１月、外務省のＪＰＯ派遣制度試験に合格した。３月に国連開発計画（ＵＮＤＰ）で防災の専門職員としてアフリカへ派遣される。多感な時期に家庭崩壊など逆境を乗り越えてきた仲村さん。海外での経験を重ねることで、苦しい立場の人に手を差し伸べ、誰かの役に立つような仕事をしたいと考えるようになったという。

②中城村南上原で生まれ育った。父は定年退職後、朝から酒を飲み周りに迷惑をかけていた。父と口論が絶えなかった母は、仲村さんが中学２年生の夏に突然いなくなった。親戚夫婦が仲村さんと妹らの面倒を見た。

③好きだった英語の勉強は続け普天間高、沖縄キリスト教学院大に通った。大学３年の2009年に嘉手納基地内の消防で働くことが決まり、学業を続けながら消防士の勤務をこなした。何度も人の死に直面し「人はいつ死ぬか分からない。基地のフェンスの中でキャリアを終えるのは嫌だ」と考えるようになった。

④高校時代から国連機関で働くことが夢で、大学卒業後の2012年、通信制の吉備（きび）国際大大学院（岡山県）に通い、防災関係の修士号を取得した。海外経験を積むため2017年に消防の仕事を辞め、国際協力機構（ＪＩＣＡ）でジャマイカ国へ。防災対策などの経験を重ね、2019年から県出身者として初めて、米州開発銀行（ＩＤＢ）で勤務する。ＩＤＢでは気候変動や自然災害に関して調査し、政策を提言する業務などを担う。

⑤海外で働くと、低所得の家庭の子どもは低所得の仕事に就くという“コミュニティーの階層”が、どこにでもあることに気付いた。それを打破するには勉強を重ねたり、コミュニティーから出たりして、選択肢を広げることが大事と考えている。

⑥父は2011年、自宅で倒れた。いつものように酔いつぶれているだけと思い、仲村さんはそのまま消防へ出勤した。その後、病気だったことが判明し、帰らぬ人になった。仲村さんは「父を見捨てた」と責任を感じ、償いのため人の役に立ちたいとの思いもある。

⑦2021年２月末でＩＤＢを辞め、ＵＮＤＰの防災担当としてアフリカ南部のマラウイに２年間赴く。将来は沖縄に戻り、防災関係で「沖縄のためになることをしたい」と目標を掲げる。「一人で世界は変えられないが、一人の世界は変えられる。少しでも人の役に立ちたい」と挑戦は続く。

琉球新報　2021年2月25日 金良孝矢